

桂さんと私

一人間の表と裏

G 孫沫

I. 第一印象

初めての活動と交流から桂さんは賢明の人だと考えていました。月曜日みなさんと一緒に国際交流会館の会議室で、中国版のトランプゲームを遊んでいました。うちのグループ 4 人ですけれども、インタビュー相手が決まっているので、桂さんにちょっと観察していました。一見で見れば桂さんは小さくて、かわいい様子のイメージが与えるかもしれませんが、もうちょっと話してみれば、最初のイメージを覆されていたようになりました。

桂さんはいつも落ち着いている感じを与えています、例えば、こっち中国と日本の違うところや中国版のトランプゲームのルールを説明しているとき、桂さんは大げさな驚きの声があんまりありません。この点で見ると、よくテレビで日本の女性は何のことに對してもキャーキャーしている様子を見た私としては、結構珍しい性質だと思いました。自分はなかなか落ち着かない人だとよく認識していたんです。友達にうるさいなといわれるときもいっぱいあるから、桂さんにちょっとうらやましいです。いつか私も落ち着いて行動できますか。というゆえで、桂さんの穏やかな体勢、落ち着いている精神、そしてその鋭い目つきに不思議だと思いました。

そして、鋭いという原因は、そのトランプのゲームが一番できたのは桂さんからです。ちょっとぐらいの説明だけで、残った三人の先生になるぐらいの程度になりました。桂さんはゲームに対しての注目力、理解力、学力から見れば、自分と比べてずっと鋭いです。私文型生のようによく感性にコントロールされていることの逆にして、桂さんは理系生の理性の一面を示していました。

でも、桂さんはきっとこの一面だけではありません。私も、落ち着いていて、静かなときもちゃんとありますけど。とりあえず、今から見れば、医学部ですね、やっぱりこういう穏やか、鋭さが必要です。お医者さんが落ち着かないと、こっちが困りますよ。

II. 話題

①自分との違い

私と桂さんは全然二つの世界の人だといっても過言ではありません。熱情対冷静、明るい対落ち着く、火対水、別々な性質を持っている人が一緒に会話するのはたぶん珍しいだと思います。そして、自分が失った部分を他の人の身から探すのも結構面白いことだと思いました。いったいどうして、私と桂さんは違うのか、どういう影響で桂さんは桂さんになったのですか。

②何か隠している

私もこういう特性が持っています。表は明るい、笑いことが好きなどですが、裏はちょっと暗く、一人のとき何も考えたくない、あんまり笑わないのことであります。桂さんも何か隠しているようではないですか。きっとその表の下に裏があります。

III. 話し合いの結果

① 6月11日の話し合い

その日は、桂さんといろいろな方向を定まりました。初めては、桂さんなぜ医学部に入ることを興味になりました。桂さんの父母は全部お医者さんではありませんから、また高価な学費を担って、沢山の時間を掛からなければなりません、そして、医学部に入っても、必ずお医者さんになるわけではないリスクを負担して、医学を研究するのはたぶん何か思考があると思いました。自分のほうも、父が通訳ですから、まあ、もう大先輩が前の道を明確的に導いているから、とりあえず、通訳になりませんかと考えましたが、桂さんの勇気を感じていました。ということで、「なぜ今の桂さんになったか」について、ちょっと疑問を設定しました。例えば、これからのライフスタイルとか、経歴とか、今までの生活状況とか、そして、両親の教育方、友達の影響、当地の気候などいろいろな方面から問題を提出しました。そして、来週のスケジュールを決めました。

② 6月25日の話し合い

先週の授業の中に桂さんの生活スタイル、いままでの経歴、父母や友達の影響などの方面から、本人を全面的に理解しようをしました。初めて、なぜ両親は誰でもお医者さんではないのに、医学科を選んだり、お医者さんになりたいのかということです。桂さんは兄弟があるけど、桂さんをあんまり管理せずに、自由自在の子供時代を送りました、本を読む、散歩するなどとても一人リラックスできることが趣味になっています。このところ、自分の場合、ジョギングとか、買い物することなどちょっと刺激的なことがやりたいかもしれません。学校に通っても、勉強のことを両親に心配せずに、いつも努力していて、勉強しているから、成績がいつもよい感じで、研究するのを好きになったそうです。両親は共働きですので、家族一緒に何かをやる余裕が大体ありません、このときは、たぶん桂さんは独立の思想を出す、そして、自分で問題を解決するなどをいっぱい経験しました。「THE BEATLES」の歌も結構好きといわれて、その「世間をもてあそび」という感覚がますます見えるでしょう。その格好良くて、生活を享受している様子を歌とよく適していると思います。昔、体は病気になったことがあるきっかけで、なぜ自分だけこういう病気になったのか、道この病気を直せるのか、病気はいったいどんなものか、だんだん病気に興味がありました。コレはたぶんお医者さんになりたいことの原因だと思えます。「家族が誰か病気になっても、自分はわかるから、無駄な心配は要らない」といいました。むかしも宇宙飛行士や美容師になる夢が持っていました、本当に医学を決まったときは、よく母親といっぱい相談した。両親と友達もとても支持していて、秋田は免疫の事業の研究は結構先端しているの、秋田大学の医学部に入りました。

いろいろな経験によって、桂さんは自信を立てられて、強い心を持って、独立の人になったと思っています。気といいお医者さんになれると信じてます。

③ 7月9日の話し合い

やっぱり桂さんは隠しているところがあります。普通の生活から観察して、桂さん食堂に行くときいつも友達がそばにいるから、「友達が大切ですか」と聞きました、「とても大切です」と答えた。桂さんはどんなことをやっても大体友達が隣にいます。逆に友達と一緒にしてないならおかしいに感じます。確かに落ち着く、静か、独立、堅強、でも、友達を大切にしています、できるだけ周りの人といい関係を作ったりから見れば、初対面のときまだ発見していない性質が見つかりました。今回桂さんと話しているときも、ちょっと表情が出てくる、感情が出てくる、熱情が出てくるのが明らか感じました。たぶんそうでしょう、本当のいい人や悪い人を存在していない、一人ひとりが自分の表と裏を持っているだけあって、このせいかい豊富多彩になりました。コレはたぶん人間の不思議なところだと思って、とてもよ

いと思います。

IV. まとめ

桂さんにとって、その話題は自分の知らない部分を探求する存在です。

桂さんは周りの人と交流して仲良くなりたいとても優しい人です、桂さんの外見にだまされないように。

自分は 「自己中心をやめましょう」と考えました。

V. クラスについての感想

確かに普通の生活の中で人と話す、相手を理解するチャンスが少ない、時々、私たち得た相手についてのことも偽っている可能性もある、でも、大丈夫でしょう、それでも、続いて交流して見て、あきらめないで、自分の意思をちゃんと相手に伝えて、最後は、たぶん、相手本当の自分を見せてあげるかもしれません。でも、こうしても、相手がちょっと秘密を保っているようで、また見せたくない部分があるなら、それは友達。なお、自分の全部を見せてあげて、悪いところもあまり工夫を凝らして隠さない、あなた自分の悪いところも気にしないで一緒に行きたいなら、若者よ、大切にしよう、この人、一生の同伴になれるよ。